

分担金・拠出金の名称	国連人道問題調整事務所(OCHA)拠出金	平成28年度 予算額	129,369千円	総合 評価	B
拠出先の国際機関名	国連人道問題調整事務所(OCHA)				
国際機関の概要	大規模自然災害・紛争等が発生した際に、各種支援機関が、活動の偏り及び重複を避けつつ効果的に活動できるよう、被害状況・支援ニーズの把握や国際社会へのアピール発出を含む、国際人道支援活動の総合調整を行っている。具体的には、(1)現地における国際人道支援活動の総合調整、(2)人道支援分野における問題提起・理解促進、(3)国際社会へのアピール発出、(4)タイムリーな被災地等の情報収集・発信、(5)中央緊急対応基金(CERF)の管理運営等。				
評価基準		達成状況			
1. 当該機関等の専門分野における影響力・貢献		・OCHAは、シリア、南スーダン、イラク等の紛争や自然災害など大規模人道危機における人道支援の総合調整を実施。我が国が重視する人間の安全保障を実現するため人道支援や国際緊急援助活動の円滑な実施に貢献。また、被災国の緊急対応や災害事前準備能力の強化など、防災の主流化においても重要な役割を果たしている。 ・OCHAは、国連事務総長のイニシアティブで2016年5月に開催された世界人道サミットの事務局を務めており、議長総括やコミットメント等の成果文書の取りまとめで中心的役割を果たした。これら成果文書の中で、日本が重視する難民・避難民支援における人道と開発の連携、自然災害への対応・防災、女性のエンパワーメント等、日本が重視する政策が盛り込まれるなど、国際的な人道支援の政策決定や議論に我が国意見を反映させる上でも有意義な連携が図られている。			
2. 我が国重要外交課題遂行における当該機関等の有用性(意思決定における我が国のプレゼンスを含む)		・我が国は、国連等の各種人道支援機関を通じた人道支援外交を重視している。国際機関やNGOなど様々な主体が活動する人道支援の現場において、効率的・効果的な活動を行う上で、OCHAによるニーズの把握及び調整機能は重要な役割を果たしており、人道支援活動の総合調整を行うOCHAの活動を支援することは、効果的・効率的な人道支援の実現及び我が国の推進する「人間の安全保障」の実現に資する。 ・OCHAの組織運営や財政管理について議論するOCHAドナー・サポート・グループ会合や人道支援の在り方について議論する人道作業部会等を通じ、OCHAの政策立案、活動実施面で発言力・影響力を確保している。 ・OCHAのトップである人道問題担当国連事務次長や地域事務所長等との意見交換を通じて我が国意見をOCHA事業に反映させている。 ・OCHAが管理している国別プール基金の事業実施にあたり、日本のNGOをパートナーにしているほか、日本のNGO向けの研修に講師として参加するなど、我が国民間セクターとの連携に積極的に取り組んでいる。 ・世界人道デーイベントの開催等、人道問題に関する日本国内での意識向上・広報活動に外務省や日本の大学・NGO等と協力し貢献するなど日本国内の幅広い関係者と緊密に連携している。			
3. 当該機関等の組織・財政マネジメント		・OCHAは、2年毎の包括的なパフォーマンス評価に加え、分野別の政策・パフォーマンス評価を実施しており、評価を踏まえ、政策や組織体制の見直しを行っている。また、2015年にOCHAは組織のパフォーマンスを向上させるべく機能レビューを実施。同レビューに日本も主要関係国として参加し、我が国意見を反映させている。 ・国連統一アピール(人道対応計画)におけるニーズ分析の充実を図るとともに、プログラム・サイクルに沿った事業計画の策定やモニタリング体制の構築等の改善を図るなどして、活動の効率性・効果の向上に努めている。我が国は、毎年1回実施しているドナーによるOCHAのフィールド・パフォーマンス調査に参加し組織・財政管理体制の改善に貢献している。			
4. 当該機関等における邦人職員の状況		・OCHAの日本人職員数(専門職以上)は、2014年の11名から2015年には12名に微増(2012年の9名から増加)。 ・OCHAは、2015年に日本に派遣された国連主催の国際機関合同アウトリーチミッションへの参加や大学におけるセミナー、日本人大学院生のインターンシップ受入れ等を通じて、邦人職員増強に向けた積極的な取組を実施。			
5. 我が国拠出の執行管理、PDCAサイクルの確保		日本の拠出金の執行管理につき、以下のPDCAサイクルを通じ適切な報告・フォローアップが行われている。 ①計画段階(Plan):我が国の関連政策(「経済財政運営と改革の基本方針2015」について)や国連統一アピール(人道対応計画)等に照らしつつ、予算要求。 ②実施段階(Do):予算拠出。OCHAドナー・サポート・グループ会合、ハイレベルを含む不定期の協議を通じて、OCHAの活動をモニタリング。 ③評価段階(Check):OCHA年次報告書、国連会計監査委員会による外部監査報告書、OCHAドナー・サポート・グループによるフィールド・パフォーマンス調査(年1回)等により成果を評価。 ④フォローアップ(Act):OCHAドナー・サポート・グループ会合(年1回のハイレベル年次会合及びNY・寿府における2ヶ月毎の実務者会合)やハイレベルを含む各種協議等の機会を通じ、必要に応じ改善を図っている。			
担当課・室名	国際協力局 緊急・人道支援課				